

Press Release:2012.2.5

京都造形芸術大学 染織・テキスタイルコース 修士1回生5人展

【装飾欲】展

大井萌・武田めぐみ・松本圭佑・松本直之・諸岡夏絵

2012年2月28日(火) — 3月4日(日) 11:00~19:00 ※最終日18:00まで・月曜休廊



【画像01】 松本 圭佑 《蠶蝶の夢》 4尺8寸 浜ちりめん、酸性染料、金箔、捺染

装飾欲

【そうしょくよく】

KYOTO UNIVERSITY OF ART AND DESIGN MASTER1
TEXTILE EXHIBITION ～SOUSHYOKU-YOKU～

ご案内

Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]では、2012年2月28日から3月4日まで、「装飾欲」展を開催いたします。

本展覧会は京都造形芸術大学の染織・テキスタイルコース修士1回に在籍する、大井萌・武田めぐみ・松本圭佑・松本直之・諸岡夏絵の5名によるグループ展です。鮮やかに染めあげられた着物や、美しさに機能性をあわせ持たせる衣服、「糸」や「織り」という染織の素材・行程に向き合ったタペストリーなど、それぞれの作品には「染織・テキスタイル」の持つ表現の幅を見て取ることができます。

本展は幅広い染織の表現領域にあって、自身の技法・表現を深める若手作家5名が、それぞれの取り組みやその動機を「装飾」という切り口でとらえ、ひとつの空間に展開するものです。

『私たちにとって、「装飾」物を生み出したいという欲望は食欲、睡眠欲と同じくらい大切にしている本能であり、自らを形成する行為でもあります』と語るとおり、それぞれの内なる「装飾欲」が、思考・感覚を経て細やかな手仕事により、あらわれた表現をお楽しみください。

つきましては、本展の周知にご協力くださいますようよろしくお願いします。

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、Gallery PARC【galleryparc@grandmarble.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

Press Release:2012.2.5



【画像02】 大井 萌 《ジルクする。》 W230×H82cm ナイロン布・酸性染料、染め

【開催情報】

展覧会名 京都造形芸術大学 染織・テキスタイルコース 修士1回生5人展

「装飾欲」展

出品作家 大井萌・武田めぐみ・松本圭佑・松本直之・諸岡夏絵

会 期 2012年2月28日(火) — 3月4日(日) 11:00~19:00 ※最終日18:00まで・月曜休廊

会 場 Gallery PARC(グランマーブル ギャラリー・パルク)

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル[ル・グランマーブル カフェ クラッセ]店舗内2階

【Tel & Fax】075-231-0706 【Mail】galleryparc@grandmarble.com 【HP】http://www.grandmarble.com/parc/

料 金 無料

アクセス 阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分

展示内容 京都造形芸術大学の染織・テキスタイルコース修士1回に在籍する5名の作家によるグループ展。
衣服・着物からタペストリーまでおよそ5点を展示。

お問い合わせ Gallery PARC [グランマーブル ギャラリー・パルク] (正木・永尾)

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル[ル・グランマーブル カフェ クラッセ] 2F

【Tel & Fax】075-231-0706 【Mail】galleryparc@grandmarble.com

【展覧会について】

この展覧会タイトルにある「装飾」ということばは地味なものから豪華絢爛なものまで、さまざまな意味を含みます。

私たちにとって、「装飾」物を生み出したいという欲望は食欲、睡眠欲と同じくらい大切にしている本能でもあり、自らを形成する行為でもあります。

私たちは、自身を満たすためだけに作品を作る段階を終えて、作品を外に発信していかなければならない段階にきています。

本展覧会は、京都造形芸術大学大学院芸術表現専攻染織テキスタイル領域1回生5人によるグループ展です。

染織領域は幅広く、伝統から現代、アートからプロダクトまで、多様な目的と表現方法が広がっています。そのなかで本展覧会に出品する5人はそれぞれの表現と目的をもって制作しています。各々の作品は、技法も作品形態も異なります。

しかし、ひとつだけ共通する部分があります。それは自分の手の延長線上でものをつくりたい。染織領域の中で皮膚感覚に根ざしたものづくりを楽しんでいるという部分です。

本展覧会ではこの5人の生み出したいという欲望をそれぞれの作品にたくし、表現しています。

京都造形芸術大学 染織・テキスタイルコース 修士1回生

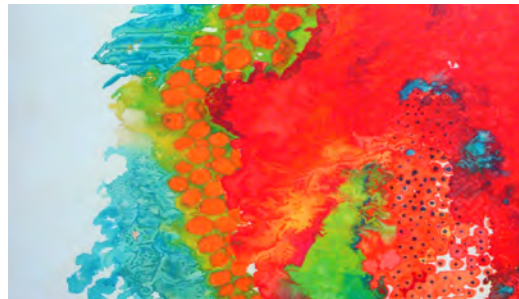
大井萌・武田めぐみ・松本圭佑・松本直之・諸岡夏絵

Press Release:2012.2.5

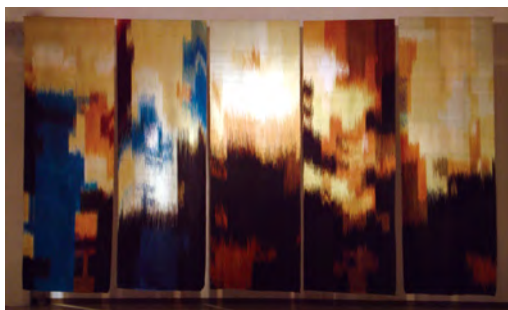
【作家コメント】

大井 萌

私は『強くて綺麗なもの』に惹かれます。それは一見すると綺麗な植物や花の中にあるグロテスクな色やカタチといったモノです。そういったものを作品にも表現したいと思ってきました。技法としては、接写撮影した写真を布にデジタルプリントした上から染めるという事や、ナイロンの布に刷毛で直接、染料で染めていくという技法で制作しています。ナイロン布は、薄いことによって台と布との間にうまれる空気の間が、自然に防染となり自分の手では描くことの出来ない模様がでできます。この方法で、花のアウトラインをなぞるのではなく、自然発生的な某かの方法でまだ見ぬ花のイメージを具現化したいと思い制作しています。



【画像02】 大井 萌 《ジュークする。》(部分)
W230×H82cm
ナイロン布・酸性染料、染め



武田 めぐみ

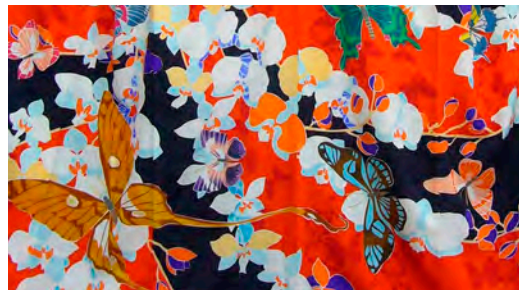
織りは計画して行ったことに素材の力が加わって出来上がるように思う。糸のズレや組み合わせによって同じものでも全く違う印象になる。想像していた以上のものや、それ以下にもなる。そのため素材を知り、偶然も想定した範囲内で起こるようにコントロールする。そこが織りの面白さであり、私が織りを表現方法として選ぶ理由だと思う。今までのステレオタイプの織物から、織りでしか出てこない表情を生かして一歩先に進んだものを見たいという気持ちが作品制作の原動力にもなっている。

【画像03】 武田 めぐみ 《小夜時雨》 羊毛、麻、経織

松本 圭祐

【画像01】

荘子の胡蝶の夢を題材にした着物。
「蝶になる夢を見た、だがもしかすると今私が存在するのは蝶が人となった夢かもしれない」
夢と現の定かでない境地。
自身の存在する世界がはたして真実か？ それとも欺瞞であるか？
夢幻の世界を題材に、何種類かの蝶と胡蝶蘭をモチーフにして描いた。
月輪の下に胡蝶蘭の狭間から垣間見える夢幻の入り口。我々は蝶のように常に夢幻と現を彷徨い、また蝶の儚さにと現実で生きる自分を重ね、鱗翅の蠢感をその身に纏う。



【画像01】 松本 圭祐 《蠱蝶の夢》(部分)
4尺8寸
浜ちりめん、酸性染料、金箔、捺染



【画像04】 松本 直之 《染み込み、かすれる。》
h185×w50cm 3枚組
ほぐし紺、平織、レーヨン

松本 直之

【画像01】

料理を作るでも、日曜大工でも、とにかく何でも「つくる」という行為は楽しい。と最近感じる。もちろん、だれかの為に「つくる」のはもっと楽しい。ここ最近では、織りと染めの技法を併用してプロセスを意識した装飾表現を試みている。布に施した、抽象的なイメージとドローイングから生まれる色とかたち。その染めた布を一部ほぐして糸の状態に戻す。そして再度、ほぐした部分を布の状態に織り直す。このほぐしたときにできた糸のズレによって、もようが少し壊れてかたちがぼやける。かたちがぼやけた部分と色が染み込んだ部分、構造物として糸と向き合う織りの3次元的なアプローチと布を染めるという2次元的なアプローチを通して作品を作っている。



諸岡 夏絵

季節に合わせて、素材を選び、持つ人によって様々な用途に使える布の形を模索しています。今回は、その第一弾となる冬のフリースを展示します。柄の入った面には、薄地で柔らかくあたたかいウール衣料素材で、日本では戦前の普段着の着物、冬物の襦袢、はんでんの表、軍服(夏用)などに用いられていたモスリンという素材を使いました。寒い冬にのお供にいかがですか？

【画像05】 諸岡 夏絵 《Fleestyle Fleece Textile～赤い街～》 モスリン、ウール、酸性染料